

令和2年度 第4回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA 部会 議事要旨

日 時：令和3年3月11日（木） 16：00～17：00

場 所：WEB会議

構 成 員：16名

出 席 者：9名

百名伸之(琉大病院小児科)、銘苅桂子(琉大病院産婦人科)、森島聡子(琉大病院第二内科)、友利敏博(森川特別支援学校)、朝倉義崇(中部病院血液・腫瘍内科)、島袋優子(琉大病院看護部)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCLS)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：6名

比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター放射線科)、仲里可奈理(沖縄県保健医療部健康長寿課)、浜田聡(琉大病院小児科)、當銘保則(琉大病院整形外科)、大城一郁(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、

陪 席 者：2名

有賀 拓郎(診療情報管理センター)

石川 千穂(がんセンター事務)

【報告事項】

1. 令和2年度 第3回小児・AYA部会 議事要旨(12月17日)
百名委員より、資料1に基づき説明があった。
2. 令和2年度 第3回「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG
議事要旨(12月17日)
銘苅委員より、資料2に基づき、説明があった。
3. 小児・AYA 部会 委員一覧
百名委員より、資料3に基づき説明があった。
4. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧
銘苅委員より、資料4に基づき説明があった。
5. 沖縄県共通の妊孕性温存の説明文書と「がんと生殖カウンセリングシート」の周知状況について
銘苅委員より、資料5に基づき説明があった。事務局から八重山病院について、丸付けが抜けている部分に関しては、新型コロナの影響で研修会が開催出来ていないので、周知が十

分ではないため、一旦空欄で提出されたとの補足があった。

6. 「妊孕性温存療法」に対する医療補助について

増田委員より、資料 6 に基づき、小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業概要についての説明があった。実施医療機関の要件として、都道府県でがん・生殖医療の連携ネットワーク体制が構築されていることがあるが、現状、そのネットワークは構築されており、妊孕性温存に関する説明文書の共有、啓発活動等、出来る活動は行っているとのことだった。銘苅委員より、産婦人科の方でも、がんと生殖に関わる心理士の育成、ナビゲーター制度の認定も受ける等、準備は進んでいると発言もあった。

7. 令和 2 年度 琉大における医療者向け研修会(講師：鈴木 直教授)についての報告

銘苅委員より、資料 7 に基づき、報告があった。

8. 沖縄県内の各医療機関での研修会について

銘苅委員より、資料 8 に基づき、開催された病院、調整中の病院について報告があった。今後も WEB 開催も視野に入れ、開催に向けて調整を続けていくとのこととなった。症例が増えてきたこともあり、各がん種の研究会向けの研修会開催についても検討していきたいとのことだった。

【協議事項】

1. 小児・AYA がん保護者向けチラシについて

百名委員より、資料 9 に基づき、完成されたチラシの報告があった。県内の各学校に送付されるために添付する添え状の内容についても確認があり、資料のような内容で送付することが承認された。友利委員より、退院の際に森川院内学校の方でカンファレンスが行われるので、そちらから配布するのはどうかと、提案があり、こちらも承認された。

2. ロジックモデルと次年度の部会活動計画について

増田委員より、資料 10 に基づき、小児・AYA 部会とがん計画に関する分野対応図に関する説明があった。また、個別政策の案を出してもらえるよう依頼があり、百名委員より、小児の緩和ケアチームを病院として作ってもらえれば、という案が出された。また友利委員より、がんで原籍校に行けていない生徒のために学校から課題を届けることについて、各学校で程度の差が出ないよう標準化するための啓発活動等を行うということや、WEB クラスの活用等、教育に関する案もあった。事務局からメールで改めて案を募集し、次回も協議されることとなった。

3. 「沖縄がんと生殖医療ネットワーク」について

銘苅委員より、「沖縄がんと生殖医療ネットワーク」について、説明があった。設立当時、琉大産婦人科を事務局として作成された資料 11 のポスターには「沖縄がんと生殖医療ネットワーク」と記載されているが、現在では小児・AYA 部会を事務局として、妊孕性温存療法の啓発活動、妊孕性温存療法 WG の開催等をもって、ネットワークとしているとの説明があっ

た。

4. 今後の妊孕性温存療法 WG の在り方について

増田委員より、今後、妊孕性温存療法 WG はどのように活動していくのか質問があった。銘苅委員より、症例が出た時のリアルタイムの議論が大切で、会議という形にするのであれば、症例について議論していくこととなるが、これまで開催した各研修会でパネルディスカッションを行っていることで、それは少しずつ進んでいるとの発言があった。今は妊孕性温存療法についての啓発期間であり、症例数も増えてきているので、WGとしては、引き続き、啓発を進めていくとの回答があった。

陪席の有賀先生より、津梁ネットワークを利用して、困った症例があった際は、早く、適切に琉大や南部・こども医療センター等につなげられるような窓口になるようなパッケージを作成するのはどうかとの提案があり、今後検討されることとなった。

5. 次年度の部会長及び副部会長について

次回部会で協議されることとなった。

6. 部会委員の追加について

事務局へ直接メールで提案してもらうこととなった。

7. 今後の開催日程について

後日、事務局より6月10日(木)か6月24日(木)でアンケートを取り、調整されることとなった。